

腫瘍の肉眼的所見，内診所見，腹水の状態，細胞学的検査，組織学的所見等を総合して行つた．マイトマイシンC使用の前後には放射線療法を行つた例，又は手術と併用例もあり，判定は容易ではないが，その効果は可成り著明と思われたものも数例あつた．尚現在観察中のものも数例ある．

(3) 副作用

マイトマイシンC静注は白血球の減少を来すと云われているので使用前及び使用中1週間1回の白血球算定，白血球百分比等を検査している．

その他赤血球及び血小板算定，血色素値ヘマトクリット値，A/G比，G.B, G.P, 血沈値，及びcc F.T.T.T., B.S.P., 高田反応，尿中ウロビリノゲン，ウロビリノーゲン，モイレングラハト等に及ぼす影響についても検討している．

140. Cycasin (蘇鉄毒)のエールリッヒ腹水癌マウスに対する制癌作用の実験的研究

(鹿児島大) 有川富康

奄美大島や沖縄に自生する，ソテツ *Cycas revoluta* THUNB. の種子が，1種の有毒成分を含み，しばしば中毒の原因をなすことは，古くから周知の事実であり，鹿大農学部西田孝太郎教授らはその有毒物質を純化・分離し，濠洲産ソテツの有毒成分である *macrozamin* と異なることを明らかにし，これに *Cycasin* なる名称を與えた．

たまたまこの *Cycasin* が1米人の手に入り，*carcinoma* 755の腫瘍細胞に対する制癌作用を研索した約70%において腫瘍発育を抑制したと報じてきた．そこで余は更にこれを，エールリッヒ腹水癌マウスに対して試み，次のような成績をえた．

一定期間一様に飼育し，18～20gのdd系雌マウスに，エールリッヒ腹水癌細胞を100万個移植し，その背部皮下に *Cycasin* の2%生理食塩水溶液を種々な配量の下に，注射して実験を行つた．

1 癌移植マウスの，生存日数や体重増加に対するその影響をみると，移植後6日目より，毎日1回20mgを5日間注射した群では，対照群と比較して体重増加が抑制されるも，生存日数が却つて短縮した．その由つて来る所以は，恐らく *Cycasin* の中毒作用によるものと思われる．その中には，5カ月以上生存し現在に到っているものがある．そこで3，5及び10mgをそれぞれ5日～10日間注射した群では，体重増加が依然抑制されたが，生存

中数もやゝ延長するようであつた．次に同様の方法を反復し，生存期間中における，腹水0.01cc中の癌細胞数の変化や分割細胞などについて検索したところ，移植後6日目より5日間，毎日1回20mgを注射した群では，細胞数は著減し，癌細胞の分割像も前期型や中期型が，対照群のそれよりは少くなり，後期型や分割異型像が Co^{60} 照射の場合ほど著明ではないが，増加の傾向を示した．そして3及び5mgを5日間注射した群では細胞数は対照群にくらべて減少の度合が大きく，腹水貯溜が対照群よりも遅延するようである．なお腹水癌細胞2000個中の分割細胞は，対照群よりも明かに減少の傾向を示し，その前期型や中期型が少くなり，逆に後期型及び末期型が稍々多くなつてくるようである．

(誌上発表) 141. 子宮頸癌に於ける組織的癌蔓延の拡がりおよび予後について

(長崎大) 田中和治

子宮頸癌に於いては，臨床的進行期と組織的癌蔓延は，必ずしも一致しない．

頸癌根治手術中，我國で，最も廣く行われている岡林術式に於いて，治癒せしめ得る癌蔓延はどの程度か，各部に於ける組織的癌蔓延と永久治癒率の關係に就いては，我教室では，度々報告しましたが，今回は，昭和22年より28年迄に我教室にて行つた岡林術式により摘出せる標本中，無選擇に81例をとり，各々1例毎に，組織像と各部，即ち，旁結合織，体部，附屬器，腔壁，リンパ節の全組織への蔓延を関連せしめて検索し，次の成績を得た．

1) 組織像(特にC.P.L.)と予後

C型では，13例中，12例(92.3%)治癒し，I型では，17例中，5例(29.4%)治癒している．尚，LⅢ型は，治癒例は1例もない．

2) 旁結合織と予後

蔓延のないものは，13例中，12例(92.3%)治癒し，子宮側 $\frac{1}{3}$ に限局せるものは，6例中，4例(66.7%)治癒し，中央 $\frac{1}{3}$ ，又は，それ以上外側に及んだものは，12例中，2例(16.7%)の治癒である．

3) 体部と予後

蔓延のないものは，17例中，9例(65.4%)治癒し，あるものは，5例中，1例(20.0%)治癒，漿膜に迄及べる2例は，いずれも死亡している．

4) 附屬器と予後

附屬器に蔓延のあるものは2例で、いずれも他の全組織へ蔓延があり、いずれも死亡している。尚、1例は、組織像、C型であった。

5) 腔壁と予後

蔓延のないものは、13例中、11例(84.6%)治癒し、あるものは、18例中、7例(38.9%)治癒している。

6) リンパ節と予後

轉移のないものは、16例中、12例(75.0%)治癒し、あるものの中、1箇のものは、8例中、4例(50.0%)、2箇のものは、7例中、2例(28.6%)治癒し、兩者を合せて、15例中、6例(40.0%)治癒している。

7) 予後に関係深い、原発巣のL型と、旁結合織、リンパ節の組合せについてみると、L型で、旁結合織、及び、リンパ節に蔓延のあるものは、10例中、2例(20.0%)治癒しているに比べ、C型、又はC型との組合せのものは、13例中、12例(92.3%)治癒している。

尚、旁結合織癌蔓延がある場合は、体部、又は、附屬器、又は腔壁等へ、蔓延のある事が多い(88.0%)。

又、旁結合織に蔓延がなく、リンパ節轉移が既に認められるものが、約30%ある。

(誌上発表) 142. トヨマイシンに関する基礎的・臨床的研究

(大阪市大) 藤森速水, 山田文夫, 菅本一三
木下 博, 小池 勲, 水野 昭

Streptomyces Griseus より得られた抗生物質たる制癌剤トヨマイシンにつき、若干の動物実験、試験管内実験を行い、併せて臨床的にも使用した。トヨマイシンの急性毒性作用について、マウス尾静脈内1回投與したものは LD_{50} (24時間) は大略 2.2~2.8mg/kgと推定される。本剤の抗腫瘍性効果について、エールリッヒ腹水癌擔癌マウス及び $C_{3}H$ 系自然発生乳癌マウスに静脈内投與又は腹腔内投與し、いずれも腹水貯溜防止、腫瘤増大抑制を認め、又軽度ながら延命効果がある如く思われた。之等について組織学的、細胞学的にも検討を加え、癌細胞の一連の悪性像が認められた。又 HeLa 細胞に於いて、核濃縮、原形質の空胞形成等の崩壊像が認められた。本剤は枯草菌を用いカップ法にて阻止帯を形成し、枯草菌に対する抗菌性を有すると考えられ、エールリッヒ腹水癌の腹水を皮下移植し、本剤を投與せる場合にもその皮下腫瘍中に同様な方法で阻止帯がみられた。但しこの腫瘍の P^{32} の攝取率については対照群との間

には明かな差はみとめられなかつた。尚マリグノリピンについては今日尚疑義なしとしないが、エールリッヒ腹水癌腹水を用いての実験では、本剤連続投與の場合、陰性化する傾向がみられた。次に子宮癌患者に本剤を肘静脈内に投與、或いは逆行性股動脈内投與、或いは又腔タンポンにより直接子宮腔部癌局所に圧抵せしめた。投與量は原則として 250γ/日とした。子宮癌局所の肉眼的所見では概ね改善されるものが多いが、出血と帯下に対しては著効を示すものがあつた。又本剤を長期間使用した患者について、腔鏡診、及び組織学的検討を加え、夫々改善像を認めた。しかし之を以つて直ちに本剤の効果とは即断出来ないが注目さるべき所見と考える。従来制癌剤については、屢々血液所見上白血球数並びに赤血球数等の減少をきたすものが多いと云われるが、本剤使用によつて、白血球数は多少の減少はあるが、そのために本剤の投與を中止しなければならないものは殆んどなかつた。又赤血球数の減少は白血球の場合に比し軽度であつた。又肝機能障害については極めて少数例を除き著変はみられなかつた。この事については上記の動物実験に於いても同様の結果が得られた。更に1例ではあるが、悪性絨毛上皮腫の患者に対し使用し、著効を示したと思われる症例があつた。制癌剤の効果は早急には云々出来ないが、之等の臨床的並に動物実験成績より考えて本剤は臨床例に用いて比較的副作用もすくなく好都合と考えられる。

(誌上発表) 143. 子宮頸癌、卵巢癌、子宮筋肉腫、絨毛癌等に対する Thio-TEPA の影響と Tele-cobalt 療法、RC-4, Corcicoid 等との併用効果及び癌根治手術との併用に関する臨床的研究

(東大) 梶 英雄

子宮頸癌 I, II 期及び III 期(2例), 計10例に術前7~10日に亘つて T E S P A を使用し、3例に RC-4, 5例に Nitromin を夫々使用した後腹式廣汎性子宮全剔除術及び淋巴節廓清術を行つた。その剔出淋巴腺に轉移癌細胞を認めた例で、その癌細胞の一部に軽度ではあるが細胞の膨潤化、空泡変性、核変性、核膜の不鮮明、異型核分裂像等を認めたものがある。之等の例は現在迄の観察、即ち術後8カ月~1年迄の観察では癌再発所見は、1例の III 期のものを除き認めていない。尚今後5年以上の経過を観察中である。

又手術不能の頸癌にも T E S P A を使用し、多少の他